

色の情報を視覚的に捉え、表現しようとする力の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立出石特別支援学校 瀧本 直道

本時の目標 ・タブレット端末に提示された色に注目することができる。	校種・学年	特別支援学校・肢体不自由児
	教科・領域	自立活動
	アプリ・ソフト	・Finger board Pro (iOS)
	備考	

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> いろいろな色を知ろう。 </div>
展開	○「どんな色が好き」の絵本の読み聞かせをする。 ◆絵本に興味を持てるよう、歌を交えながら楽しい雰囲気に取り組む。 ◆絵本の注目すべきイラストに指さしをしたり、声かけて促したりする。 ○タブレット端末を使った色の学習に取り組む。 ◆タッチをすると反応があることが分かるよう、はじめは教師と一緒に取り組み、慣れてきたら一人で取り組めるようにする。
まとめ	○頑張ったことや楽しかったこと、興味を持ったことを発表する。 ◆絵本やタブレットを生徒に提示し、選択できるようにする。

育成できる情報活用能力

◎色の付いた箇所をタッチすると音声とイラストで反応があり、色に注目できるようにする。

活用のポイント

◎デジタル教材の良さは、複製・共有・変更が容易であるところである。その利点を活かし、元データを変更修正し新しい教材を作ることができる。

児童の様子
<ul style="list-style-type: none"> ・タッチの動作と同時に「あお」という音声や色に関連するイラストの反応が即座にあるので、対象の色に注目することができていた。 ・子どもの興味関心に応じて、イラストを変更することができるので、継続して学習に取り組むことができた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・タッチやタップなど児童が可能な動作で繰り返し取り組むことで、タブレット端末を操作して表現する能力を育成できる。
- ・朝の会の進行や余暇の絵本など、様々な場面で使用する機会を設定することが必要である。

矢印キーの向きと画面上の動きとの関係を理解して対象物(ペンギン)を動かす。

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立芦屋特別支援学校 鈴木 徹

本時の目標	校種・学年	特別支援学校高等部・1年
・対象(画面)をよく見て操作する。 ・押す矢印キーの向きと画面上のオブジェクトの動きとの関係を理解する。 ・迷路の中のペンギンを矢印キーを使って動かし、出口に誘導する。	教科・領域	基礎学習(国数)
	アプリ・ソフト	・MAZE Activity (GCompris)
	備考	

○本時の展開

	○学習活動(◆指導上の留意点)
導入	○迷路のソフトを立ち上げて見せ、矢印キーを押してペンギンを動かして見せる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 矢印キー(←↑↓→)を押して、迷路を脱出しよう </div> ◆生徒が興味を持ち、操作できるソフトを選ぶ。 ◆矢印キーを押すと動くことを伝える。
展開	○実際に矢印キーを押して操作する。 ◆はじめは、どのキーを押すとどう動くのかを理解できておらず、キーを押しても思った方向にペンギンが動かないことがある。その場合はキーを押して動きを見せ、キーの矢印の向きと動きの向きとの関係の理解を促す。 ◆ゴールすると出てくる褒美画面を見せて、意欲を持たせる。
まとめ	○ゴールに向けて操作する。 ◆ゴールできたり、ゴールに近づけたりした時には、よくできたことをほめる。

育成できる情報活用能力

◎矢印キーを使って、画面上の対象物を意図した向きに移動させることができるようになる。(コンピュータの基本操作の一つ)



生徒の姿

※端末操作に興味を持ち、集中して意欲的に取り組んでいた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・GComprisなどのFLOSS(自由でオープンなソフトウェア)は、広告や使用制限に邪魔されず、児童・生徒も教員も自由に学習活動に使用できる優れたソフトである。
- ・GComprisには生徒の特性や能力に応じて、知育遊びから初歩のプログラミングに関するものまで様々な教育ソフトウェアが組み込まれているのでおすすめです。

作業学習喫茶で、自分の思う提案を友だちに行い、協力してお店を作ろう。

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立阪神特別支援学校 角田 徹

<p>本時の目標</p> <p>・作業学習で学んだ接客を活かして、一緒にお客さんがどのようにしてくつろげるか試行錯誤することができる。 ・友だちに対して、自分の意見を伝え、友だちが出した意見に対して、質問や意見、同意をして、互いの意見を認めながらまとめることができる。</p>	<p>校種・学年</p> <p>特別支援学校高等部・1年</p>
	<p>教科・領域</p> <p>職業科・自立活動</p>
	<p>アプリ・ソフト</p> <p>・OneNote</p>
	<p>備考</p>

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	<p>○本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の意見と友だちの意見をOneNoteに出し合って、自分たちのお店を作ろう。</p> </div> <p>○ OneNote に自分の理想のお店のイメージやフレーズを書き出し、友だちと共有する。 ◆アイデアが浮かばない生徒に対しては、友だちの意見を参考にするように声をかける。 ◆友だちの意見には、反論せず、受け入れるというルールを事前に説明する。</p>
展開	<p>○イメージに合ったそれぞれの役割を受けて、自分の理想の物やイメージを検索する。 ○検索したイメージをノートに貼り付けて、より具体的にイメージを共有する。 ◆検索する時に、わからなければ教師に質問するように伝える。</p>
まとめ	<p>○イメージを元に、次の時間にどのような店づくりをするか、意見を発表できるようにする。 ◆友だちの意見を見た感想や自分の意見を伝えた感想などを振り返るように促す。</p>

育成できる情報活用能力

◎イメージを書き出して、文字をベースに共有できることを体験することができるようにする。また、場に応じた意見を考えることができるようにする。

育成できる情報活用能力

◎自分のイメージに近い画像を検索し、それを貼り付けることができるようにする。



生徒の感想
<p>・よく話す友だち以外にもいろいろなアイデアがあって、このようなやり方を使って意見を出すのが楽しかった。 ・自分の意見が認められた時に嬉しい気持ちになった。</p>

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・グループ内で友だちの意見を交流させることで、自分のイメージをわかりやすく伝える方法や手段を考えさせることができる。
- ・自身が必要な画像を探す情報検索能力やタイピング能力など基礎となる情報活用能力の育成ができる。

プレゼンテーション、WEB ページ、SNS 等によって表現・発信、創造する力の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立氷上特別支援学校 濱田 哲平

本時の目標 ・伝えたい情報を精選し、1枚の紙にまとめよう ・読み手が読みやすいレイアウトを考えよう ・「見やすくわかりやすい」チラシを作ろう	校種・学年	特別支援学校高等部・3年
	教科・領域	職業(情報)
	アプリ・ソフト	・Pages ・カメラ機能
	備考	

○本時の展開

	○学習活動(◆指導上の留意点)
導入	○本時の目当てを確認する。 Pages を使ってお客さんが買いたくなるチラシを作ろう ○身近なチラシや広告から、良いアイデアを見つける。 ○「見やすくわかりやすい」チラシデザインを知る。 ◆生徒がよく使用しているアプリを使用する。 ◆良い見本となっているチラシは教師で準備するが、生徒各々がインターネットの検索機能を使い分かりやすいと感じたチラシを調べる。
展開	○「見やすくわかりやすい」チラシデザインを意識し、チラシを作る。 ◆基本は Pages のアプリを使用するが工夫に関しては、アプリの制限をせず自由に取り組みできるようにする。
まとめ	○友だちが作成したチラシを交流する。 ◆大型モニターにできたチラシを映し、工夫した点などを伝える。

育成できる情報活用能力

◎「AND 検索」等を活用し、検索ワードを工夫することで、得たい情報を精選することができる。

育成できる情報活用能力

◎アプリを制限しないことで生徒自身が工夫し表現の幅を広げることができる。また、有効と感じたり気になったりした編集方法をお互いに教えあうことができる。

育成できる情報活用能力

◎大型モニターに映すことで、レイアウトや工夫した点が効果的に活用できているか客観的に見ることができる。



生徒の感想

- ・たくさん色を使えばよいということではないということが分かった。
- ・写真の機能だけでこんなこと(背景の切り取り)ができると知らなかった。
- ・テンプレートを使用すると簡単にチラシができた。あとは自分風にアレンジするだけで、やる前は苦手と感じていたが意外とできた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・写真は、背景を切り取った方が見やすいのではないか、文字のサイズを場所によって変えた方が良いのではないかなど、自分たちで考え工夫して作成することができた。
- ・写真を使用するとき顔は写してもよいのかと、肖像権等の情報モラルについても同時に考えさせることができる。